



国土交通省・上原鉄道局長

赤字ローカル線について

意見を述べる！

国鉄改革の経緯を踏まえて路線の適切な維持に努め、廃止や見直しをしようとするときには関係自治体や利害関係人に十分に説明するという規定がある。

(知事や市長など沿線自治体の首長が了解していない場合について)
選挙で選ばれた代表者が JR の説明に納得していないということは、説明責任を果たしていないと言われても仕方ない。首長など地元の了解を得ない限り廃線はできない。

(便数が減って無人駅が増え、利便性が大きく低下したローカル線がある現状に触れ)

「利用者目線で考えたらどうか」

JR西日本が今後の路線の在り方について沿線自治体に協議を求めている赤字ローカル線を巡り、国土交通省の上原鉄道局長が考えを示すと報じられました。

JR東日本でも「バス路線への転換なども含めた今後の在り方について、沿線自治体などと議論を進めた」として、利用者が特に少なくないという地方路線について、年内の早い段階で線区ごとの収支を初めて公表する方針を明らかにしました。

只見線のように上下分離方式で鉄道を残す方法もあります。また、福井県のえちぜん鉄道では、パーク＆ライドの環境整備や運行体系の見直しで利用者を大幅に増やしました。鉄道局長が述べている「利用者目線で」地域の足はどうあるべきかを考えていかなくはなりません。